

個別の支援をしてどのように変わったか

- ①こだわりはあるが、先生の意見を聞いて、変えられるようになってきた
- ②自分の非を認め謝れるようになった
- ③物を舐めたり、噛んだりすることが無くなった
- ④離席することは無くなり、彼ができる範囲でノートを取るようになった。
- ⑤クラスでのトラブルはほぼ無くなった(あったとしても、ごめんなさいで終わる程度)
- ⑥本人もお母さんもいい顔で過ごすことが多くなった

課題

- ①友だちとの距離感、関わり方、話し方の方法を知る必要があること
- ②黒板を写すときの方略を知り、活用できるようにすること
- ③身辺整理・身だしなみの整え方・提出物を確実に出すことを覚える

授業研にUDと合理的配慮の観点を取り入れた

障害者差別解消法(28年度 4月施行)を受けて、榎小学校の研究授業の形態を大きく変化させた。

一般的な指導案に配慮が必要な児童を特筆する項目を設けた。それを受けて、本時の流れを書く欄に『困難が予想される児童への対応』を追加した。そうすることで困難さを抱えた児童を中心とした、授業づくりを目指した。

指導案

学習内容・活動	指導上の留意点	や困難が予想される子への対応
1 本時の見直しをもつ。	○1時間の流れを確認して共通理解をさせる。	☆1時間の流れを説明し、授業の経過がわかるようにする。 【見直し】 【視覚化】 (全・A・B・C・D・E)
2 本時の復習をする。	○問題や式の確認をして思い出しさせる。	☆復習の内容を思い出し、本時の流れにスムーズに入れるようにする。 【見直し】 (全・A・B・C・D・E) ☆復習内容を提示してもらい学習内容を整理させる。 【学習内容確認】 (B・C・E)

実践を取り入れた授業の紹介

- ①授業を組み立てる上でアセスメントを細かく取ったこと
- ②困難さをもっている児童に焦点を当てて授業展開を考えたこと
- ③困難さをもっている児童が授業で活躍できるように仕組んだこと

映像を見ながら説明します

この授業を終えて学校が変わったこと

適切な支援を行うと児童が変わることが広まった

児童の行動観察の方法や問題行動の原因をつきとめようと教師同士で考えるようになってきた

児童を支援するためにユニバーサルデザインを取り入れようとする動きや榎スタンダードという形を取り入れることができた